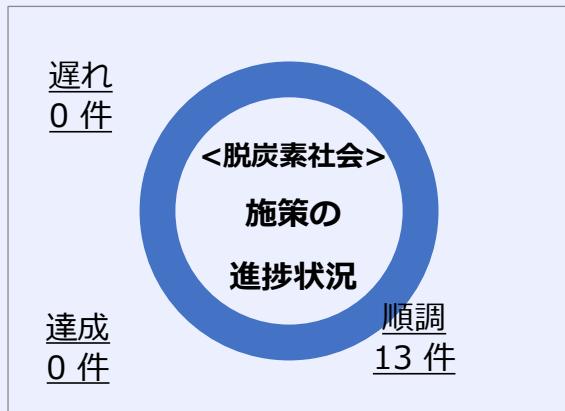


脱炭素社会

【2024（令和6）年度の進捗状況】



※「達成」：施策の当初の目標を達成しているもの
「順調」：現状のベースで今後も取組を進めていくもの
「遅れ」：ペースを加速又は他の施策に比べ重点的に取り組む必要があるもの
※ 進捗状況を評価するに当たり毎年度、豊田市環境審議会で意見や提案等を受けています。

＜施策の進捗状況＞

- ・施策は13項目中、全てが順調の評価。
- ・成果指標は9項目中、全てが順調に推移。
- ・まちの状態指標は概ね目指す方向性に向かって順調に進んでいるが、再生可能エネルギー導入率は微減した。総発電量は増加しているものの、エネルギー需要の高まりによる影響が考えられる。
- ・市域から排出されるCO₂排出量については、2030年の目標を達成するためには上乗せの施策が必要。

Vision 【2025年への「めざす姿」】(このような姿に近づいていますか？)

- ・再生可能エネルギーの普及が進み、まち全体としてエネルギー利用の効率化が進んでいる
- ・脱炭素型の暮らしが定着し、脱炭素型の交通システムやものづくりの基盤が確立している
- ・人工林の間伐が進み、森林によるCO₂吸収量が増加している
- ・気候変動への適応の認知度が高まり、取組が進んでいる
- ・環境モデル都市として先進技術やインフラが普及し、取組が浸透している

Goal 【まちの状態指標】

指標名	現状値（把握年度）	目指す方向
再生可能エネルギー導入率	28% (2023年度)	↑
市内のCO ₂ 排出量*	243万t-CO ₂ (2022年度)	↓
森林によるCO ₂ 吸収量	15.5万t-CO ₂ (2022年度)	↑
「気候変動への適応」の言葉を知っていて、積極的に取組を行っているまたは少し取り組んでいる市民の割合（※2024年度から変更）	60.7% (2024年度)	↑
「地球温暖化対策に取り組むまち」として満足している市民の割合	29.6% (2023年度)	↑

※環境基本計画策定（2018年3月）以降に算定方法の変更あり



Pick Up 第1回 脱-1（だつわん）グランプリの開催

(環境政策課)

とよた・ゼロカーボンネットワーク（会長：太田稔彦）は、ゼロカーボンシティの実現に向け、仲間とチームを組んで CO2 排出量を削減する行動（ゼロ・カーボンアクション）に取り組み、CO2 の合計削減量を競う「第1回脱-1（だつわん）グランプリ」を実施しました。

2024年5月～8月にかけて実施し、35組 292人の参加がありました。期間中の参加者の行動変容により合計で 5,789.9 kg-CO2 の削減効果がありました。

このキャンペーンに参加するなかで、通勤時の乗り合わせや、こまめな節電により実際に節約や節電効果にもつながり、これからも続けていきたいといった参加者の声もあり、環境配慮行動の定着や気づきのきっかけとすることができました。



とよた産業フェスタ内の表彰式にて



キャンペーンのチラシ

Pick Up 「全国市区第4回 SDGs 先進度調査」で全国総合1位

(未来都市推進課)

豊田市は、日本経済新聞社の「全国市区第4回 SDGs 先進度調査」（令和7年1月6日発行：日経グローカル誌掲載）において、全国総合1位となりました。本調査は令和6年8月～11月にかけて、全国815市区を対象に行われた調査であり、「経済」「社会」「環境」の3つの側面から各市区のSDGsへの取組状況の評価が行われました。なお、中核市が総合1位となるのは、今回が初めてのことです。

経済分野では女性の起業支援事業や事業承継支援事業が、社会分野では企業のSDGsに関する取組を豊田市が評価・認証する「豊田市 SDGs 認証制度」や、子ども向けSDGs講座「とよた SDGs ミライ大学」などの取組が、環境分野では渡刈クリーンセンター（渡刈町）でのバイオマス発電や、発電した電力の環境価値を「グリーン電力証書」として販売する取組などが評価されました。



日経グローカル誌

自然共生社会

【2024（令和6）年度の進捗状況】



＜施策の進捗状況＞

- ・13の施策のうち水や緑とのふれあい空間の形成や環境教育・環境学習の充実など7件が順調の評価。
- ・体験型自然観察会や自然環境調査の充実など6施策は、計画どおり事業を実施したが、成果目標が目標より下回ったため遅れとした。
- ・市民参加型調査を推進するため、活動の成果をわかりやすくPRするなど、展開の方法に工夫が必要などの意見があった。

※「達成」：施策の当初の目標を達成しているもの
「順調」：現状のペースで今後も取組を進めていくもの
「遅れ」：ペースを加速又は他の施策に比べ重点的に取り組む必要があるもの
※進捗状況を評価するに当たり毎年度、豊田市環境審議会で意見や提案等を受けています。

Vision 【2025年への「めざす姿】（このような姿に近づいていますか？）

- ・豊かな自然とふれあう機会を創出し、多くの市民が利用している
- ・生物多様性の状況を把握し、その結果が施策へ反映されている
- ・市民による保全活動が促進され、連携が進んでいる
- ・開発行為に対する適切な監視や指導がされている
- ・企業による生物多様性保全に関するCSR活動が活発化している
- ・多面的機能を持つ農地が保全され、生態系に配慮した営農がされている

Goal 【まちの状態指標】

標名	現状値（把握年度）	目指す方向
「自然とふれあえる場の多さ」として満足している市民の割合	52.5% (2024年度)	↑
生物多様性を理解している市民の割合	33.1% (2024年度)	↑
① 希少野生動植物種 ② 特定外来生物 が豊田市にも生息・生育していることを知っている市民の割合	① 35.0% (2024年度) ② 67.3% (2024年度)	↑
生物多様性を保全する活動・イベントに参加したことがある市民の割合	21.8% (2024年度)	↑
市内で確認された希少種の種数	536種 (2022年度)	→
健全化に向かっている人工林の割合	84.0% (2024年度)	↑
「公園や緑地が身边にあるまち」として満足している市民の割合	55.0% (2023年度)	↑
生物多様性保全活動に取り組む企業の割合	28.9% (2024年度)	↑

Pick Up 環境保全活動に取り組む団体への表彰

(環境政策課)

豊田市では、日頃地域における環境保全活動に尽力されている団体・個人について、国や県が実施する表彰に積極的に推薦しています。表彰実績は以下のとおりです。

■環境省 地域環境美化功績者表彰 山中町自治区

功績概要 ラムサール条約登録湿地である恩真寺湿地を守るために、10年以上にわたり除草や支障木の伐採などの保全活動を継続。令和4年度には、愛知県の環境保全関係功労者表彰を受賞。また、地域の重要な財産である恩真寺湿地を次世代に継承していくことにも注力している。



市長表敬の様子

■愛知県 環境保全関係功労者表彰 タカドヤ高原湿地を守る会

功績概要 愛知高原国定公園内に位置するタカドヤ湿地の保全活用のため、10年以上にわたり草刈りや雑木伐採などの活動を継続。湿地の周知と利用促進にも取り組んでおり、「タカドヤもみじまつり」の開催などを通じて、市民の湿地利用を通じた環境保全意識の向上にも貢献している。



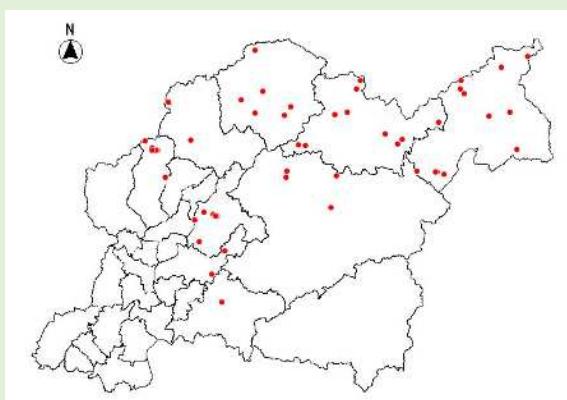
表彰式の様子

Pick Up ツキノワグマの出没が増加しています

(環境政策課)

豊田市内において、ツキノワグマの出没が増加しています。2024年度は、山間部を中心に51件の出没がありました（クマらしき動物の目撃を含む）。

クマによる事故を防ぐために、山ではクマ鈴などの音の出るものを持ち歩いたり、家の周りのカキやクリなどの果樹を早めに収穫したりするなど、クマとの遭遇を防ぐ対策を行いましょう。



2024年度クマ出没地点



市内の山中で撮影されたツキノワグマ

循環型社会

【2024（令和6）年度の進捗状況】



<施策の進捗状況>

- ・11の施策は、11件が順調の評価。
- ・市民一人当たりのごみ排出量が減少している。
- ・事業系可燃ごみ排出量が減少している。
- ・ごみ分別アプリのダウンロード数が増加している。
- ・ごみカレンダーの全戸配布、ごみ分別啓発動画の作成による啓発を行っている。
- ・施設の維持管理が適正に行われており、ごみ処理1t当たりの発電量目標値を上回っている。
- ・廃棄物の不適正処理現場を適切に把握している。
- ・粗大ごみのオンライン受付、キャッシュレス決済の導入により利便性が向上している。

※「達成」：施策の当初の目標を達成しているもの
「順調」：現状のベースで今後も取組を進めていくもの
「遅れ」：ベースを加速又は他の施策に比べ重点的に取り組む必要があるもの

※進捗状況を評価するに当たり毎年度、豊田市環境審議会で意見や提案等を受けています。

Vision 【2025年への「めざす姿】】(このような姿に近づいていますか？)

- ・廃棄物の発生抑制が進んでいる
- ・廃棄物の再使用・再生利用が進んでいる
- ・廃棄物の適正処理が進んでいる
- ・安心できるごみ処理体制が確保されている

Goal 【まちの状態指標】

指標名	現状値 (把握年度)	目指す方向
市民一人当たりのごみの排出量	482 g (2024年度)	↓
事業系可燃ごみの排出量	26,904 t (2024年度)	↓
廃棄物の不適正処理現場の数	95か所 (2024年度)	↓
最終処分場の容量確保	44,411m ³ (2024年度)	↑
施設の稼働率	59% (2024年度)	→

Pick Up マイボトル持参でプラスチックを削減「とよたマイボトラー」キャンペーンを実施 (循環型社会推進課)

3 R の取組実践のひとつであるマイボトルの持参を推進するために、「とよたマイボトラー」を募集しました。

名古屋グランパス特製ステンレスボトル配布や Instagram キャンペーンを実施し、マイボトルの持参を呼びかけることにより、ペットボトル等の利用を抑制し CO2 削減に寄与する取組です。



名古屋グランパス特製マイボトルを配布する様子

Pick Up 家庭用生ごみ処理機の無料レンタルを実施 (循環型社会推進課)

家庭における生ごみ処理機器や本市が行っている「生ごみ処理機器購入費補助金」について周知を図るため、令和 6 年 9 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日に家庭用生ごみ処理機の無料レンタルを実施しました。



Panasonic 製 家庭用生ごみ処理機



loofen 生ごみ乾燥機

Pick Up LINE を活用した粗大ごみの収集申込の開始 (清掃業務課)

粗大ごみの戸別収集を電話申し込みに加え、令和 6 年 10 月 1 日から L I N E でも申込みができるようになりました。24 時間 365 日いつでも申込みできるようになりました。

また、処理手数料の支払いも P a y P a y やクレジットカードで決済できるようになりました。



LINE 申込み画面

安全・安心社会



【2024（令和6）年度の進捗状況】



- ※「達成」：施策の当初の目標を達成しているもの
- 「順調」：現状のペースで今後も取組を進めていくもの
- 「遅れ」：ペースを加速又は他の施策に比べ重点的に取り組む必要があるもの
- ※ 進捗状況を評価するに当たり毎年度、豊田市環境審議会で意見や提案等を受けています。

<施策の進捗状況>

- 11 の施策は、全て順調の評価。
- 成果指標は、全て順調の評価。
- 審議会では、生活環境に係る苦情が微増していることを踏まえ、法的措置が必要なレベルの汚染ではないかという確認のほか、ごみのポイ捨て対策を強化してほしいという意見、防災や生活環境保全に対して、市の部署の枠を超えて対策を検討することを期待したいという意見が出された。

Vision 【2025 年への「めざす姿】】(このような姿に近づいていますか？)

- ・生活環境が保全され、快適に暮らせている
- ・災害に強いまちづくりが進んでいる

Goal 【まちの状態指標】

指標名	現状値（把握年度）	目指す方向
周辺環境への満足度（全体）	54.6% (2024 年度)	↑
「気候変動への適応」の言葉を知っていて、積極的に取組を行っているまたは少し取り組んでいる市民の割合（※2024 年度から変更）	60.7% (2024 年度)	↑

Pick Up 第 12 回環境省グッドライフアワード 実行委員会特別賞を受賞 (環境保全課)

2024 年 12 月、環境保全協定を締結した企業 33 社と豊田市により構成される「環境の保全を推進する協定協議会」は、15 年にわたる継続的な活動が評価され、第 12 回環境省グッドライフアワード実行委員会特別賞「環境ひとづくり賞」を受賞しました。

環境に配慮した行動を、市民や企業の取引先などの多くの関係者を巻き込みながら市域全体に広げ、地域全体の底上げを図っている取組が、持続可能な社会の構築に向けた環境人材の育成に貢献していると高く評価されました。

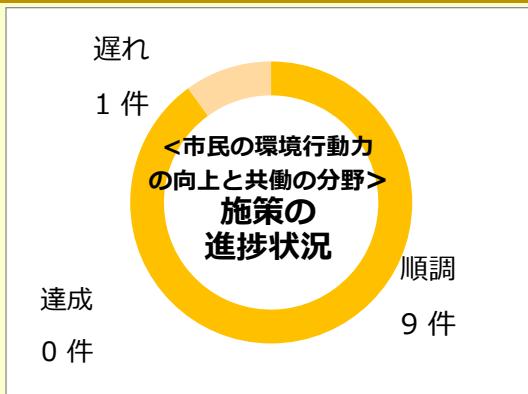


表彰式の様子



市民の環境行動力の向上と共働の分野

【2024（令和6）年度の進捗状況】



※「達成」：施策の当初の目標を達成しているもの
 「順調」：現状のペースで今後も取組を進めていくもの
 「遅れ」：ペースを加速又は他の施策に比べ重点的に取り組む必要があるもの
 ※ 進捗状況を評価するに当たり毎年度、豊田市環境審議会で意見や提案等を受けています。

＜施策の進捗状況＞

- ・10の施策は、「環境行動を促す仕組みづくり」が遅れ、そのほかは全て順調の評価。
- ・成果指標は、「情報受信者数」と「SDGsポイント新規加入者数」が遅れ、そのほかは全て順調の評価。
- ・審議会では、子どもだけでなく、大人に向けた環境教育の必要性や、自分事化することの重要性に関する意見のほか、SDGsカードゲームの活用や、SDGsポイント制度の活用に関する意見が出された。

Vision 【2025年への「めざす姿】】(このような姿に近づいていますか？)

- ・充実した環境学習施設を拠点に、様々な世代へ適切な環境情報・学習の場が提供されている
- ・学んだ知識を活かして、環境配慮行動を実践する市民が増えている
- ・多様な暮らし方を認め、理想の暮らしを実現している
- ・多くの市民・事業者が、自発的に環境行動を実践し、活動成果を共有している
- ・特徴的な取組が市内外へ発信されている
- ・市が率先して環境配慮行動を実践している

Goal 【まちの状態指標】

指標名	現状値（把握年度）	目指す方向
「市民や企業が環境に配慮しているまち」として満足している市民の割合	50.4% (2023年度)	↑
環境配慮行動を実践している市民の割合	76.8% (2024年度)	↑
環境に関連する取組を行っている事業所の割合	51.2% (2024年度)	↑
豊田市や住んでいる地域に対して愛着を感じている市民の割合	75.9% (2023年度)	↑

Pick Up 地球にやさしい暮らしを啓発する「とよたエコライフ俱楽部フェスタ2024」を開催

(循環型社会推進課)

資源循環やごみの減量に関する取組を紹介することで、多くの市民にエコライフ（地球にやさしい暮らし）の実践を後押しするために「とよたエコライフ俱楽部フェスタ2024」を開催しました。

とよたエコライフ俱楽部は、市民・事業者・行政の連携のもと、市民の皆さん一人ひとりに環境に配慮した行動を促すとともに、より多くの市民の参加を得て、持続可能な社会の構築に向けた活動をしています。



イベントの様子

★豊田市環境基本計画成果指標一覧（主要データ）

社会・分野	指標名	2024年度実績	最終目標 (2025年度)
脱炭素社会	再生可能エネルギーの総発電量（市導入・関与分）	133,773kW	119,500kW
	スマートハウス支援件数（累計）新築及び既築	2,019 件	2,000 件
	スマートハウス支援件数のうち、新築 ZEH（スマート・ゼロハウス）（累計）	321 件	280 件
	新車販売台数に占める次世代自動車の割合	57.3%	50%
	公共施設の LED 化実施割合	45.9%	50%
	中小企業向け脱炭素スクール修了事業者数（累計）	99 者	100 者
	人工林の間伐実施面積(年間) ※公有林等を除く	770ha	1,200ha
	適応策推進事業への延べ参加者数（累計）	676 人	1,200 人
	環境に関する先進技術実証事業の件数	4 件	毎年度 3 件以上
自然共生社会	豊田市自然観察の森における講座等の受講者数	4,667 人	5,500 人
	新たに整備された水辺や緑地等のふれあい空間の箇所数	4 か所	3 か所 (2022～2025 年)
	環境学習施設を利用した小学生の生物多様性の理解度	93.8%	80%以上
	サイエンスミュージアムネットに登録された標本の数（累計）	27,750 件	40,000 件
	市民参加生き物調査における一般参加者数	—	1,700 人
	生物多様性保全に関する活動団体数	36 団体	35 団体
	人工林の間伐実施面積(年間) ※公有林等を除く	770ha	1,200ha
	みどりのまちづくり推進事業補助金による緑地整備面積	1,369 m²	3,200m ² (2021～2024 年度)
	自然共生に関する企業と地域・市民活動団体とのマッチング件数	0 件	年間 5 件
	山村部の暮らしに関する情報受信者数	2,608 件	増加
	経営耕地面積	—	維持

社会・分野	指標名	2024年度実績	最終目標 (2025年度)
循環型社会	市民一人当たりのごみ排出量 (家庭系ごみ+資源回収量)	570g	660 g
	市民一人当たりのごみ排出量	482g	520 g
	市民一人当たりのごみ排出量 (燃やすごみ)	452g	485 g
	最終処分量 (直接埋立量)	1,206t	1,527 t
	事業系可燃ごみ排出量	26,904t	35,000 t
	ごみ処理 1 t 当たりの発電量	460 k Wh / t	440 k wh / t 以上
	廃棄物の不適正処理現場の数	95 か所	前年度から 3 か所以上減
	焼却施設の稼働率	59%	60%以上
安全社会・安心	環境の保全を推進する協定等で定めた 協定値を超過した事業所の数	1 件	0 件
	不良な生活環境の解消率	89%	50%
	適応策推進事業への延べ参加者数 (累計)	676 人	1,200 人
市民の環境行動力の向上と共働の分野	環境学習施設を利用した小学生の地球温暖化や生 物多様性の理解度 (環境学習施設 : 豊田市自然観察の森、 豊田市環境学習施設 eco-T)	89.4%	80%
	とよた SDGs パートナーの連携事業数	16 件	毎年度 5 件以上
	都市部と山村部の暮らしに関する情報受信者数 ①WEB サイト閲覧数、②おいでんさんそんセンター Facebook いいね数	① 22,711 件 ② 2,608 件	①60,000 件 ②増加
	環境学習施設 eco-T におけるインターブリター登 録数 (積み木キャラバン隊含む)	90 人	100 人体制を維持
	とよた SDGs ポイント新規加入者数	211 人	毎年度 500 人以上
	協定協議会 WEB サイト閲覧者数 (4 年間累計)	11,306 件	10,000 人 (2021-2024 年度)
	環境情報提供ツールの利用者数 分別アプリさんあ～る	86,335 件	96,000 件
	SDGs 関連プロモーション事業数	8 件	毎年度 3 件以上

